

## 平成 19年度の審査を終えて (審査総括)

愛媛大学教育改革諮問委員会委員長 柳澤 康信

このたび、平成 19年度の愛媛大学教育改革促進事業の審査を終え、11件のプログラム等を採択しました。ご申請いただいた皆様には厚く御礼を申し上げます。

今年度は、新たな教育課題に対応するための新規の教育プログラム等のほか、昨年不採択だった取組を改善して再申請されたものもいくつかありました。それぞれに工夫がこらされ甲乙つけがたい内容であったため、採択プログラム等を選ぶ作業は困難でしたが、最終的には、なるべく多くの委員の意見が一致するものを採択しました。

採択理由と不採択理由については、それぞれ実施責任者にはお伝えしたところですが、評価の高かった点と併せて、今後の課題となる点についても記載しましたので、今後のプログラム等の実施や改善の際に役立てていただきたいと思います。

また、今年度も教育改革シンポジウムの実施も予定していますので、積極的に参加され、併せて参考としていただければ幸いです。

教育改革は、日々の活動の積み重ねがあって成り立つものです。各学部等におかれましては、教育コーディネーターを中心として着実な活動に取り組んでいただき、来年度、さらに多くの申請をお願いいたします。

### 【採択プログラム・プロジェクト名及び採択理由】

種目	学部名 / 採択プログラム・プロジェクト名		実施責任者
1(1)	法文学部	法文学部総合政策学科における実践型 / 体験型教育を柱とするグローバル・スタディーズ・コースの立ち上げ 地域と支え合うグローバル教育を目指して	小淵 港
	採択理由	<p>本取組は、大規模大学ではできない真にグローバルな教育のシステムを、比較的小規模のコースを立ち上げ、日々の教育実践の中でその実現の方向性を模索するという試みであり文系の学部として成功するならばその影響は小さくないものと考えられます。特に教育ネットワークと地域社会に開かれた教育を掲げている点に本学の地域・生命・環境にターゲットをおいた教育・研究活動の重点との密接なつながりを感じさせるものであり評価されます。今後の「学生中心の大学づくり」という本学の理念に沿った地道なコースの作りあげが期待されます。</p> <p>今後の課題としては、なおグローバルな教育の具体像をはっきりとさせる必要があり取り上げる海外の諸地域や語学教育との密接なリンクage、教育到達目標の明確化を含むカリキュラムの一層の構造化など多くの点を指摘することが出来ます。また、教育実践の途上において生じる諸問題から派生し、取り組むべき諸問題は少なくないものと考えられます。</p>	
1(1)	医学部	愛媛に根ざしたがんプロフェッショナル養成プラン～卒前卒後一貫教育による臓器横断的がん専門医育成～	大西丘倫
	採択理由	<p>本取組については、対象学生が限定された特化したプログラムですが、申請者の従来の6年間画一的医学教育を打破したいという強い意欲や、地域の医療現場における切実な課題の解決を目指した実験性、明確な目的設定といった点が評価されました。</p> <p>一方で、体験を重視した学習の成果確認の手法が曖昧である点、担当教員の学生への関わり方・フィードバック方法が見えない点については課題も残されています。</p> <p>担当教員の役割分担の明確化を行い、FDを実施するなど、取組に対する一層の努力と工夫を重ねられるようお願いいたします。</p>	
1(1)	農学部	愛媛大学食育士養成プログラムの創設	泉 英二
	採択理由	<p>本取組については、食育のデッドゾーンである大学生を対象としているという意味で社会的ニーズを踏まえている点、コース横断型という新しいプログラム設計がなされている点、ぎょしょく教育などこれまでの実績が豊富である点といった点が評価されました。将来的には、他学部の学生が本取組のエッセンスを享受できる科目(共通教育)の提供について検討が望まれます。また資格付与にあたって同様の資格との差異化と連携について今後十分に調査されることが期待されます。</p> <p>一方で、プログラムの評価体制についての記述が弱いように思われます。内外の評価体制の構築を検討下さい。</p>	

	教育学部	教員養成と教員研修をリンクした協同的な学びによる授業改善 - 理科における授業改善をモデルとして -	曲田清維
1(2)	採択理由	<p>本取組は、理科離れの解消という教育現場のニーズに即応し、理科教員を目指す学生と現職の教員との双方のボトムアップを意図したもので、大学の地域貢献としての意義も認められます。前回の申請時に不採択となったものではありませんが、今回は取組内容が全体的にブラッシュアップされただけでなく、前回申請後にさらに実績を積み重ねた点が評価されました。</p> <p>なお、学生と教育現場と大学とが協働する取組として学習効果やプログラムの堅実さが評価された一方で、貴学部全体の取組としての意義には疑問の声も出ております。本取組自体の継続性や、理科だけではなく他の科目の教育課程への波及効果も含めて、貴学部全体の教育改革とのリンクが求められます。</p>	
	医学部	大学院における実践的医学教育のための専攻共通科目の実質化 ~ 講義と実習による体系的博士課程教育の充実 ~	大西丘倫
1(2)	採択理由	<p>専攻共通科目を整備して、大学院(博士課程)での研究へと円滑に移行できるよう講義内容、指導体制等が周到に計画されている取組で、大学院教育の高度化と実質化に資すると評価されました。</p>	
	工学部	創造性『ものづくり』教育法の開発と評価	高松雄三
1(2)	採択理由	<p>本取組については、「創造力とデザイン能力の育成」のための教育方法・教育内容の改善、特に、創造的能力を発揮させるための3D-CADの導入、部外者(リタイアしたベテラン)による評価といった点が評価されました。</p> <p>なお一方で、カリキュラム全体の中での「創造設計製作」と他の科目との整合性について、更なる検討が必要であるとの指摘もありました。</p>	
	工学部	工学部応用化学科における高校理科教員免許取得希望者の教育システムの整備	高松雄三
1(2)	採択理由	<p>科学技術の急激な進歩は、学校教育における理系教育の一層の充実と教育に携わる人材の適切な供給が急務であることを示しています。今後、工学系の学生の中から理科教員がより多く生まれるであろうことも期待されるところであります。この取組は、そうした流れを受けて、特に応用化学科において高校課程の理科教員免許取得のための教育システム整備を目指すものであり、多くの有為な理科教員を生み出す基盤を形成し、特に受験競争の中で実験が軽視される傾向に対する有効な方策を提供することが期待される点と評価されました。</p> <p>今後の課題としては、とくに軽視されがちな高校段階での理科実験の標準化と手順・安全の手引きなど、教育現場の細かいニーズに沿った教案マニュアル開発(Web上の動画を含む)への展開などが望まれます。</p>	
	農学部	農学部生物資源学科専門教育科目における安全衛生教育「技術者の初歩」教育プログラムの開発	泉 英二
1(2)	採択理由	<p>本取組については、農学部の横断的取組であり、現場での対応を意識した「労働安全衛生管理マネジメント」「環境マネジメント」に関する基礎的な知識を教授する取組である点と評価されました。</p> <p>引き続き、愛媛大学の教育の充実発展のため、改革を推し進めていただくとともに、取組に対する一層の努力と工夫を重ねられるようお願いいたします。</p>	
	(国際交流センター)	日本語教員資格養成 国際交流に関する全学向けプログラム群の構築	弓削俊洋
2	採択理由	<p>本取組は、法文、教育両学部と国際交流センターとの連携のもとで進めるプロジェクトとして愛媛大学で進めるGPIにふさわしいと高く評価されました。資格認定プログラムの構築とそれを通じた国際交流の発展への寄与の点も特筆されます。今後プログラムを具体化する中で、資格もしくは別専攻や一般教養科目として展開したほうが良いのかどうかについて、さらに検討されることを期待します。</p>	

2	(国際交流センター)	大学未習得外国語基礎学力推進を支援する中国語テキストの開発	陳 捷
	採択理由	この取組については、学生の需要の高い中国語のテキストを作成すること、それによって本学の中国語のレベルアップが期待できることなどが高く評価されました。引き続き、本取組による良質のテキスト作成に一層の努力と工夫を重ねられるようお願いいたします。	
2	(英語教育センター)	到達目標標準型英語一貫プログラムの構築	折本 素
	採択理由	英語センターではかねてより到達度の統一的な診断を可能にするシステムの導入など、本学の英語教育の内容改善のための努力がなされてきました。実用英語の習得は依然として大学教育においても隘路の一つとしてあげることができます。この取組については、到達目標を設定し、Can-Doリストにより学生の英語力診断を通して自己認識や積極的で到達可能な目標設定を促すプログラム構築が目標とされており、取組の担い手である教員層もバランスよく学部横断型であるなどといった点が評価されました。	

種目 1: 学士課程教育及び大学院教育課程における組織基盤的な教育改革プログラム

- (1) 教育課程に関する取組
- (2) 教育内容及び教育方法に関する取組
- (3) 教育効果の検証及び教育成果の活用に関する取組

種目 2: 組織横断的な教員グループによる創生的な教育開発プロジェクト